

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

東京都立園芸高等学校 定時制課程

1 組織

- (1) 都立園芸高等学校 学校運営連絡協議会 (定時制課程)
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任・事務局長)・主任教諭 (進路指導主任)・生活指導主任 計3名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任 (兼農場主任)、進路指導主任、保健清美主任、  
学年会主任、スクールカウンセラーの合計9名
- (4) 協議委員の構成  
保護者代表1名、同窓会代表1名、近隣中学校長1名、地域住民代表2名、  
地域消防署1名、地域警察署1名、就労連携機関代表1名、地域連携推進者1名の合計9名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会 (第1～3回) の開催日時、内容、その他  
新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、全ての回が紙面による開催となった。

第1回 令和2年9月9日 (水曜)

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、防災委員についても委嘱  
学校経営計画、昨年度の学校経営報告、昨年度の学校評価結果の分析・考察、  
本校の現状と課題等説明、1学期の教育活動に関する報告

第2回 令和2年12月25日 (金曜)

前回の意見交換・質疑応答、2学期の教育活動に関する報告  
これまでの本年度の本校の現状と課題等説明、協議委員からの教育活動に対する意見、  
学校評価の内容検討、意見交換

第3回 令和3年3月24日 (水曜)

前回の意見交換、これまでの教育活動に関する報告 (各分掌からまとめと課題の報告)  
学校評価アンケート集計結果、課題の報告・確認、次年度に向けた取り組み  
協議委員からの教育活動に対する意見提出

3 学校運営連絡協議会による学校評価 (学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。  
「学校運営」「学習」「生活」「進路」「特別活動」「施設・設備」「学校情報」「全般・その他」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ・1月 協議委員 対象：9人 回収：5人 回収率：56%
  - ・1月 保護者 対象：36人 回収：26人 回収率：72%
  - ・1月 生徒 対象：40人 回収：36人 回収率：90%
  - ・1月 教職員 対象：11人 回収：11人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目  
・「学校運営」「学習」「生活」「進路」「特別活動」「施設・設備」「学校情報」「全般・その他」などの評価項目を、学校の実態に合わせて設定した。

- (4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)
- ・授業進度、わかりやすさ、個別対応は生徒の89%~100%の生徒・保護者が肯定的な評価をしている。課題を見つけ考えを表現できる授業については否定的な意見も若干ある。読書活動では図書館利用の上昇が続いており、昨年から10%増の80%となった。
  - ・生活面では、あいさつ・遅刻の指導については生徒、教職員の評価は高まったが、保護者の中には否定的な意見も見られる。次年度は数値で見える形で保護者に伝えたい。相談体制は、昨年に比べて評価が高まった。教職員が感じる以上に、生徒・保護者は学校の生活指導に納得している。
  - ・学校生活に対する満足度は、生徒、保護者ともに84%が肯定的である。昨年に比べ生徒が2ポイント下がり、保護者は12ポイント下がった。感染症対策で行事のほとんどが中止になったことも原因と考えられ、教員の自己評価も73%と例年よりも低い。

- (5) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言)
- ・コロナ禍の中、工夫して学校経営にあたり、地域連携や進路活動で一定の成果を上げたことに対して高い評価をいただいた。
  - ・ホームページやTwitter、InstagramなどのSNSを利用した学校情報の発信は、生徒・保護者、地域住民、中学生など、広い範囲で学校PRに繋がっていると高く評価していただいた。
  - ・今年度より生徒の学力向上に向けたコア課題を教職員で共有し定期的に評価と改善を行っている。この他に「生徒による授業評価」の毎学期や考査ごとの実施等により生徒の声を聞くとともに、教科担当者が指導計画、評価等について更に説明を行うことが大切である。更に時間講師が多い定時制課程の特徴も加味して、授業の改善を全教職員で研修していく必要がある。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題 (学校の自己評価へ反映)

##### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価アンケートの教員の評価と生徒・保護者・協議委員の評価の間に違いがある項目は依然として存在している。学校側からのHPを利用した情報発信は保護者・生徒にも徐々に広がったが、情報発信そのもののPRは今後も必要である。授業改善に向けた校内研修の実施、充実を進めるとともに、保護者や地域、受検生に向けた情報の周知に努める。

##### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・協議委員は、伝統ある本校の学校の教育機能や施設の活用状況、充実した専門教育を理解し、評価している。一方で、それらが中学校や中学生、地域住民へ十分に伝わっていないと感じている。
- ・今年度は適応指導教室を中心に募集活動を行ったが、次年度は中学校への訪問も充実させる。
- ・今後も、防災に対する備えや訓練について、地域との協力関係を強化するべきである。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項 (学校経営計画へ反映)

##### (1) 学校運営

生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。地域連携リーディング校として、専門を生かした連携をより一層充実させていく。

##### (2) 学習指導

若手教諭の授業参観、普通科と農業科の相互授業研究、校外の研修会をより積極的に活用し、授業力を向上させる。現在実施している学力検査の結果を用いて生徒の学力伸長や定着度を測る指標を作成し、評価するシステムを構築した。これを継続し、PDCAを繰り返していく。

##### (3) 特別活動

部活動と学級活動については、感染症対策を充分に行った上で、生徒の主体的な活動を引き出し、活性化を図る。学校行事についても、生徒が主体となった活動を維持しつつ、達成感や成就感が得られるように、今後も指導を継続する。

##### (4) 生活指導

面接週間の設定など年間を通して生徒と面談する機会を今後も確保する。さらに、保護者との面談の機会を設定し、保護者との連携を強化する。また、スクールカウンセラーや外部機関(せたがや若者サポートステーション等)との連携を継続していく。

##### (5) 進路指導

入学時より進路に関する情報を提供し、進路指導を早期から実施し、考える機会を持てるように取り組んでいる。これらの取り組みに関する情報が保護者に十分伝わらず、生徒の評価との間のギャップが解消できていない。また、教員間でも進路指導に関するあり方をあらためて確認し、進路指導に関する情報発信をより積極的に行う。

- (6) 健康・安全  
 少人数の集団での学習により、教職員の目の届く範囲が広くなり、安全への配慮を高めている。健康指導については、今後も生徒・保護者への丁寧な説明を継続し、発信している情報の周知に努める。
- (7) 施設・設備  
 施設面では、短期に解決できることは迅速に対応していく。清掃について生徒の評価が低い。清掃のあり方や施設の使用方法などについて、全日制と協力して改善していく。
- (8) 学校情報  
 ホームページや SNS を利用して、行事や授業についての情報発信力の向上に努めた。今後も生徒を経由した情報伝達の指導を徹底するとともに、広報紙や学級通信の発行などで情報を周知する。
- (9) 体罰・暴言防止への取り組み  
 体罰に関する問題は生じていないが、安心・安全な学習環境を維持するため、生徒間の暴言については毅然として粘り強い指導を継続する。体罰や暴言等を許さない雰囲気醸成するなど、教員の組織的な指導体制をさらに強化する。また、SNS 等を通じた発言について講演会等を利用して考えさせる機会を継続して設定する。

6 「学校の活動に対する評価」(協議委員)

- (1) 協議委員人数 9人(回答者5人)  
 (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

大項目	よく当てはまる	やや当てはまる	どちらとも言えない	あまり当てはまらない	全然当てはまらない	分からない
学校運営 (4項目)	3～5	0～2				
学習面 (2項目)	3～4	1				0～1
生活面 (3項目)	1～3	0～2	0～1			0～2
進路面 (2項目)	4	1				
特別活動 (2項目)	3～4	1	0～1			
健康・安全 (1項目)	4	1				
施設・設備 (2項目)	4	1				
学校情報 (2項目)	2～4	1～2				0～1
全般・その他(4項目)	3～4	0～1	0～1			
働き方改革 (1項目)	3	1				1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議・企画調整会議とも参加実績はない。

8 その他

新型コロナウイルスによる感染防止のため、学校内の教育活動だけでなく、学校外においても検定試験や大会が中止となり、例年のような成果を上げることができなかった。その中でも十分な活動を行えたことに対して評価をいただいた。次年度の励みとしたい。